

令和元年度(2019年度)

病虫害発生予察情報 第4号

4月月報

北海道病虫害防除所 令和元年(2019年)5月17日

http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/
Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・少雨(少雪)・多照』中旬を中心に晴れた日多く、記録的多照－

この期間の天気は、概ね数日の周期で変わり、中旬を中心に高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かった。気温は上旬は平年より低かったが、中旬はかなり高く、月平均気温は高かった。降水量は上旬と下旬は平年より少なく、月降水量も少なかった。日照時間は上旬と中旬は平年よりかなり多く、下旬は多く、月間日照時間はかなり多かった。降雪量は中旬は平年よりかなり少なく、月降雪量は少なかった。なお、1946年の統計開始以降、オホーツク海側の月間日照時間は最も多かった。

上旬：1日は気圧の尾根の中となって広い範囲で晴れたが、低気圧が接近して日本海側南部や太平洋側西部で雪の降った所があった。2日は低気圧が通過して日本海側南部や太平洋側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側を中心に晴れた所も多かった。3日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側などで雪の降った所があったが、次第に気圧の尾根の中となって晴れた所も多かった。4日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雪や雨の降った所があった。5日は気圧の尾根の中となってオホーツク海側を中心に晴れた所もあったが、次第に前線を伴った低気圧の影響で全道的に雪や雨が降った。6日は気圧の谷の影響により広い範囲で雪や雨が降ったが、太平洋側東部を中心に晴れた所も多かった。7～8日は気圧の尾根の中となって概ね晴れたが、気圧の谷の影響で雪や雨の降った所もあった。9日は高気圧の張り出しの中となって日本海側や太平洋側西部などで晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雪や雨の降った所があった。10日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。

中旬：11日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、太平洋側では上空の寒気の影響で雨の降った所もあった。12～14日は高気圧に覆われて全道的に晴れた。15日は前線を伴った低気圧が通過して全道的に雨や雪が降った。日降水量は斜里町宇登呂で58.5mmなど。16日は低気圧の影響でオホーツク海側を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。17～18日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。19日は前線を伴った低気圧が通過して日本海側や太平洋側西部を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所もあった。20日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。

下旬：21～22日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。23日は、はじめ高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側や太平洋側を中心に晴れたが、気圧の谷が接近して日本海側などで雨の降った所があった。24日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、次第に前線を伴った低気圧が接近して雨の降った所もあった。25日は前線が通過して広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側や太平洋側西部では晴れた。26～27日は低気圧を含む気圧の谷の影響により広い範囲で雪や雨が降った。28～29日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。30日は、はじめ高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、気圧の谷が接近して次第に雨の降った所が多かった。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+0.6	高	52	少	134	か多
日本海側10地点平均	+0.4	並	52	少	136	か多
オホーツク海側4地点平均	+0.9	高	42	少	137	か多
太平洋側8地点平均	+0.7	高	56	少	130	か多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 秋まき小麦

1. 雪腐病 発生量 少

予察ほにおける根雪始は、長沼町および訓子府町では平年並、芽室町では平年よりやや遅かった。融雪期は、芽室町および訓子府町では平年より早く、長沼町では平年よりやや早かった。積雪期間は芽室町および訓子府町では短く、長沼町では平年よりやや短かった。

主力品種「きたほなみ」における雪腐病の発病度は、芽室町および訓子府町では平年より低く、長沼町では平年並だった。病原菌種別で見ると、長沼町では紅色雪腐病、芽室町では雪腐黒色小粒菌核病、紅色雪腐病、訓子府町では雪腐大粒菌核病、紅色雪腐病が主体だった。

一般ほにおける発生面積率、被害面積率はともに平年より低かった。病原菌種別では、雪腐褐色小粒菌核病の割合が高い地域が多かったものの、オホーツク、十勝地方では紅色雪腐病の割合が高かった。

予察ほにおける積雪状況

地点	根雪始		融雪期		積雪期間(日)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	12月7日	12月9日	3月26日	3月31日	109	113
芽室町	12月7日	12月3日	3月10日	4月7日	93	126
訓子府町	12月7日	12月5日	3月26日	4月1日	110	118

予察ほにおける発生状況

地点	品種名	発病度		平年数
		本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	12.2	22.5	10
	きたほなみ	10.6	12.5	9
芽室町	チホクコムギ	0.4	38.8	10
	きたほなみ	3.1	35.7	10
訓子府町	チホクコムギ	30.2	37.6	10
	きたほなみ	9.2	29.4	10

予察ほにおける病原菌種別発生割合(%)

地点	長沼町				芽室町				訓子府町			
	品種名		品種名		品種名		品種名		品種名		品種名	
菌種	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
雪腐大粒菌核病	0	0	0	0	0	10	0	10	2	22	45	22
雪腐黒色小粒菌核病	26	5	6	3	67	29	44	25	11	50	14	44
雪腐褐色小粒菌核病	56	73	22	65	0	27	0	9	0	2	0	2
紅色雪腐病	19	8	72	17	33	34	56	57	87	26	42	31
褐色雪腐病	0	14	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0

一般ほにおける発生状況(振興局別調査結果)

振興局	作付面積(ha)	発生面積率(%)		被害面積率(%)		発生ほの病原菌種別発生割合(%)				
		本年	平年	本年	平年	大粒	褐小	黒小	紅色	褐色
空知	14,779	29.9	43.9	3.3	6.5	0	37.1	9.0	24.6	29.3
石狩	5,782	36.5	57.7	5.1	11.0	0	69.4	9.9	13.0	7.7
後志	1,389	18.7	58.3	1.1	2.4	0	53.3	15.2	22.5	9.0
胆振	1,364	0	12.2	0	0.7	0	57.7	36.0	6.3	0
檜山	486	16.7	20.7	0	1.4	0	51.3	31.6	17.1	0
上川	11,148	58.1	65.1	7.9	16.3	0	32.3	27.4	9.2	31.1
留萌	816	44.8	65.5	7.4	17.9	0	10.7	0	0	89.3
オホーツク	23,276	27.5	37.7	1.7	4.3	0.3	5.8	13.8	79.1	0.9
十勝	41,908	7.0	20.2	0.0	1.6	1.2	0	17.0	80.3	1.5
全道計	100,948	22.9	34.9	2.1	5.0	0.2	25.1	16.6	41.0	17.0

注) 大粒：雪腐大粒菌核病、黒小：雪腐黒色小粒菌核病、褐小：雪腐褐色小粒菌核病、
 紅色：紅色雪腐病、褐色：褐色雪腐病

2. 赤さび病 発生期 早 発生量 並

予察ほにおける「きたほなみ」の初発日は長沼町および訓子府町では平年より早かった。発生量は各地点とも平年並であった。

予察ほにおける発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率(%)*		平年数
		4月6半旬		4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	きたほなみ	4月18日	4月30日	0.06	0.02	10
芽室町	きたほなみ	未発生	5月8日	0	0.01	10
訓子府町	きたほなみ	4月22日	5月20日	0.01	0.00	10

注)*:全葉調査の平均値

3. うどんこ病 発生期 早 発生量 やや多

予察ほにおけるうどんこ病抵抗性“弱”品種「チホクコムギ」の初発日は、長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点においても平年より早かった。発生量は長沼町ではやや少なく、芽室町では平年並、訓子府町では平年より多かった。主力品種「きたほなみ」において、長沼町、訓子府町で平年より早く、芽室町では平年よりやや早く初発を認めた。

予察ほにおける発生状況

地点	品種名	初発日		病斑面積率(%)*		平年数
		4月6半旬		4月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	チホクコムギ	4月22日	5月1日	0.02	0.23	10
	きたほなみ	4月26日	5月10日	0	0.00	9
芽室町	チホクコムギ	4月17日	4月30日	0.03	0.06	10
	きたほなみ	5月9日	5月13日	0	0.01	10
訓子府町	チホクコムギ	4月19日	5月2日	1.53	0.06	10
	きたほなみ	5月1日	5月7日	0.04	0.00	10

注)*:全葉調査の平均値

B. あぶらな科野菜

1. コナガ 発生期 並 発生量 並

フェロモントラップによる雄成虫の初誘殺日は、滝川市で平年より早く、長沼町で平年よりやや早く、北斗市および訓子府町で平年並、比布町および芽室町では平年より遅かった。誘殺数は、北斗市、芽室町、訓子府町および滝川市で平年並、長沼町で平年よりやや少なく、比布町では平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4月4半旬	1	0.7	0	3.3	4	3.7	0	0.2	0	0.1	2	0
5半旬	0	1.1	4	9.7	4	4.9	0	1.0	0	0.2	2	1.0
6半旬	0.5	1.9	5	12.7	2	4.7	0	0.8	0	0.7	4	1.2
5月1半旬	0.5	2.6	8	47.8	8	17.3	1	2.1	1	0.6	1	3.7
2半旬	3	10.4	4	24.5	20	27.2	2	2.8	0.3	0.6	0	4.5
初誘殺日	4月16日	4月20日	4月24日	4月14日	4月16日	4月18日	5月3日	4月26日	5月3日	5月1日	4月17日	4月28日
平年数	10		4		10		10		10		6	

C. りんご

1. ハダニ類 (リンゴハダニ) 越冬卵量 並

予察園の1短果枝当たり越冬卵数は、長沼町(無防除)で0卵(平年:0卵)、余市町(慣行防除)で0卵(平年:0卵)と平年並であった。

2. ハマキムシ類 (ミダレカクモンハマキ) 発生期 並 越冬卵量 やや多

予察園の5年枝3本当たりの越冬卵塊密度は、長沼町(無防除)で0.3卵塊(平年:0.09卵塊)と平年より高かった。余市町A(慣行防除)では0卵塊(平年:0.01卵塊)、余市町B(慣行防除)では0卵塊(平年:0.06卵塊)で卵塊は認められなかった。越冬卵のふ化始は、長沼町では5月5日(平年:5月4日)と平年並であった。